

日本人スペイン語学習者のスペイン語発音に観察される 日本語モーラ構造の影響*

○木村琢也（上智大院・理工研／清泉女子大・文），荒井隆行（上智大・理工）

1 はじめに

スペイン語は開音節構造を好む点で日本語と類似しているが、その一方で *triste*「悲しい」の /tr-/ のように日本語では許容されない音節頭 2 子音連続 /C₁C₂-/ を持つ。ただし、C₁ は /p, t, k, b, d, g, f/, C₂ は /l, r/ に限られる。また C₂ が /r/ のときには調音運動の都合上 2 子音間に「挿入母音要素」(elemento esvarabático) が頻繁に挿入されることが知られている^[1]。

日本語は原則として子音連続を許容しないため、英語などから子音連続を含む語を借用する際には子音間に母音を挿入する。例: *try* > トライ, *tree* > ツリー。その結果、「ト」や「ツ」などの新たなモーラが生じる。

本研究では、このような両言語の音素配列的・リズム的相違が日本語を母語とするスペイン語学習者のスペイン語発音に与える影響を調べる。

2 資料

ターゲット語として *triste* /trís.te/「悲しい」、*turista* /tu.rís.ta/「旅行者」、*frío* /frí.o/「冷たい」、*julio* /xú.lyo/「7月」の4語を用い（音素表記中のピリオドは音節境界を示す）、これらの語を *Digo _____ después*。「私は後で _____ と言います」というキャリア文中に置いた文を、22名の発音者に1回ずつ読ませて録音した。

発音者は Table 1 に示す4群に分かれる。日本人20名はすべて日本語を母語とし、現在東京都内の大学でスペイン語を専攻している大学生。「初級者」などの呼称は便宜的なものである。母語話者2名はいずれも日本でスペイン語教師をしているスペイン人である。

録音は2014年1月と5月に学生たちが在学

する2大学のそれぞれの防音室で行った。録音には OLYMPUS LINEAR PCM RECORDER LS-10 を用いて 44.1kHz, 16bit で録音し、以後の分析には Praat^[2] Ver.5.3.71 を用いた。

Table 1 発音者の内訳

発音者群の呼称	特性	人数 (うち男/女)
初級者 (Beginner)	スペイン語学習歴1年程度、スペイン語圏に6か月以上の滞在歴なし	10 (3/7)
中級者 (Intermediate)	スペイン語学習歴2年以上、スペイン語圏に6か月以上の滞在歴なし	7 (1/6)
上級者 (Advanced)	スペイン語学習歴3年以上、スペイン語圏に6か月以上の滞在歴あり	3 (1/2)
母語話者 (Native)		2 (1/1)
計		22 (6/16)

3 分析と結果

3.1 Triste の tris- と turista の turis-

Triste は2音節語、*turista* は3音節語であるから、仮にすべての音節が同じ長さで発音されるとすれば、*tris-*の長さは *triste* の50%、*turis-*の長さは *turista* の約66.7%、従って後者から前者を引いた差は16.7%になるはずである。このように22人の発話について ((*turis-* / *turista*) - (*tris-* / *triste*)) × 100(%) を求めた。

なお、語頭子音の長さは音節長に含めなかった。これは録音時に「途中で休止を入れず一息で読む」ように指示したにもかかわらず、*Digo* とターゲット語の間に休止を入れて読ん

* Influence of Japanese mora structure observed in Spanish pronunciation by Japanese learners of Spanish, by KIMURA, Takuya (Sophia University / Seisen University) and ARAI, Takayuki (Sophia University).

だ発音者が相当数いて、その場合に[t]の開始時点を特定するのが困難だったからである。従って、[t]の破裂解放時点を音節開始時点と見なしている。後で見る *frío, julio* においても、これと合わせるために[f], [x]の摩擦時間は音節長に含めていない。

Fig. 1 に上記の仕方で算出した値を発音者ごとに、発音者群別に昇順に示す。単位は%。母語話者2名が示す差も6%程度で、先に理論値とした16.7%に比べるとはるかに小さい。完全な音節リズムではないことがわかる。話者群による明確な違いは現れていないが、初級者の値はゼロの近くに分布しており、*triste* と *turista* を同じように（日本語の4モーラ語に近く）発音していることが示唆される。

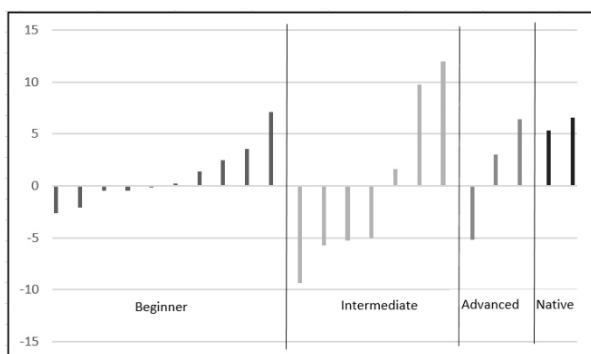


Fig. 1 *Tris-* / *triste* (%) subtracted from *turis-* / *turista* (%)

3.2 Turista の/u/と triste の挿入母音要素

次に *turista* の/u/の長さ と *triste* の/t/と/r/の間に現れる挿入母音要素の長さを比較した。ただし話者によって話速がかなり異なるので（最速の話者は4ターゲット語に含まれる9音節の平均長が131ms, 最遅の話者は260ms), 観察対象の母音の長さをその話者の平均音節長で割って標準化した。その上で *turista* の/u/の相対長から *triste* の挿入母音要素の相対長を引いた値を示したのが Fig. 2 である。

期待されるような、母語話者や上級者のほうが差が大きく初級者では差が小さいという傾向は見えない。しかし、挿入母音要素の音色を観察すると、母語話者と上級者はいずれも[a]と記すべき中間的な母音を挿入しているのに対し、初級者10名のうち5名はかなり明瞭な[o]を、中級者7名のうち1名は[o], 2名は[i]を挿入していて、日本語の干渉が認められる。

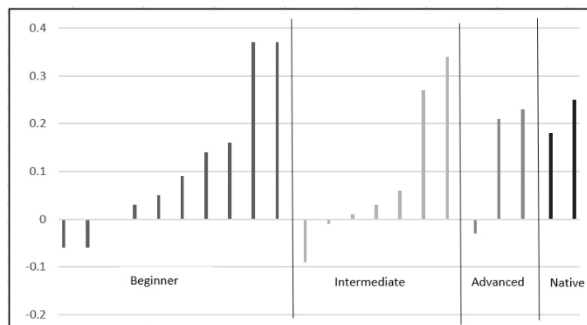


Fig. 2 Difference between the relative duration of /u/ in *turista* and that of the epenthetic vowel in *triste*

3.3 Julio の/u/と frío の挿入母音要素

最後に *julio* の/u/の長さ と *frío* の/f/と/r/の間に現れる挿入母音要素の長さを、3.2 と同じ方法で前者から後者を引いた差を比較した。結果を Fig. 3 に示す。

初級者と中級者に個人差が大きく、上級者・母語話者なみに差をつけている者と、両方を日本語の3モーラリズムに近く発音している者がいることがわかる。

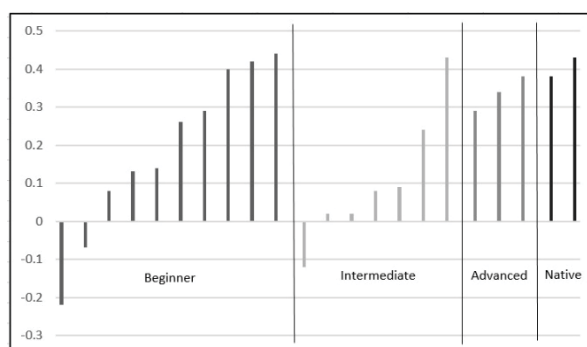


Fig. 3 Difference between the relative duration of /u/ in *julio* and that of the epenthetic vowel in *frío*

4 まとめ

日本人スペイン語学習者がスペイン語の子音連続/tr/, /fr/を発音する際、学習歴が短い者は日本語のモーラリズムの干渉を受ける傾向があるが、個人差も大きい。

参考文献

- [1] Real Academia Española et al., *Nueva gramática de la lengua española – Fonética y fonología*, Espasa, 2011, p.252.
- [2] Boersma and Weenink, "Praat, a system for doing phonetics by computer", *Glot International*, 5:9-10, pp.341-345, 2001.